



上場会社名 株式会社 小島鐵工所
 代表者 代表取締役社長 榎瀨 洋二
 (コード番号 6112)
 問合せ先責任者 取締役経理・総務部部长 田中 教司
 (TEL 027-343-1511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和2年1月9日及び同年1月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

令和2年11月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(令和元年12月1日～令和2年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	800	2	5	2	2.00
今回修正予想(B)	558	△85	△75	△73	△73.07
増減額(B-A)	△242	△87	△80	△75	
増減率(%)	△30.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (令和元年11月期第2四半期)	1,073	45	53	43	43.42

令和2年11月期通期個別業績予想数値の修正(令和元年12月1日～令和2年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,000	5	10	5	5.00
今回修正予想(B)	1,381	△296	△281	△286	△286.27
増減額(B-A)	△619	△301	△291	△291	
増減率(%)	△31.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (令和元年11月期)	2,248	23	44	34	34.05

修正の理由

当社売上高につきましては、当社の主製品である油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節的変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが当社事業の特性であります。なお、一部請負工事物件につきましては、工事進行基準を適用して売上処理を行っております。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、当120期第2四半期累計期間における売上高につきましては、大型受注物件の消化が一服し、当面の受注も引き続き伸び悩んでいることから、前年同四半期(10億73百万円)及び前回予想数値8億円を下回る5億58百万円の見込みであります。

利益面につきましては、生産効率を意識した原価への取組みに努めておりますが、損益分岐点を下回る売上高により人件費等の固定費を吸収できず、当四半期は、前回予想数値(利益)2百万円から73百万円の純損失計上となる見込みであります。

受注状況につきましては、当第2四半期累計期間受注高は、世界的経済不況の影響を受け大口物件に恵まれなかったことや、新型コロナウイルス感染の拡大防止により想定以上に受注展開に苦慮していることから、受注高は、4億32百万円(前年同期4億12百万円)と低調な状態が続いております。受注残高につきましては、令和5年納期予定の大型機械工事物件19億6百万円(平成30年受注)の受注確保により25億71百万円(前期末26億97百万円)の大口を維持できており、今後の営業展開に期待しているところであります。現在、一段厳しさを増す景気環境下にありますが、引き合いが見込まれている大型物件の早期成約に向け全力で取組み、一層の受注及び売上の回復を目指しているところでございます。

令和2年11月期通期個別業績予想につきましては、新型コロナ禍の終息が不透明な中で、業績予想の算定は大変困難な状況下にあります。表記の予想数値を見込んでおります。

*上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以 上